

# SPATIAL STUDY OF SUBURBAN CITY 2

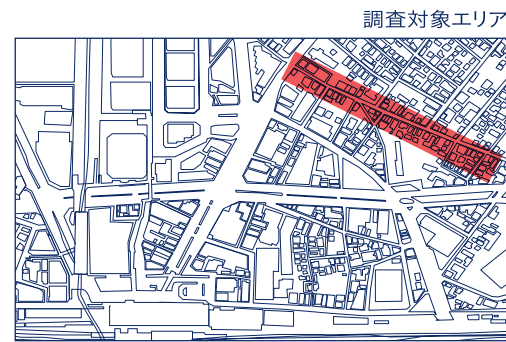
首都大学東京 郊外型都市賦活更新プロジェクト研究  
郊外都市横断スタディーズ 2

# 6

## 郊外都市の空間に関する調査 2

2012年前期の学域横断型授業では「郊外都市の空間に関する調査」と題して、立川市をフィールドとした地域調査を行った。前半は昨年度に実施した高松町・曙町地区での住民調査の分析を行うことで地域特性の概要をつかむと同時に、地域調査・社会調査の基礎的なスキルの習得につとめた。後半では2グループに分かれ、それぞれの関心にもとづいて地域調査を実施した。当初はやや調査課題が曖昧な点も見うけられたが、調査を実施していく過程でおのずと対象者やテーマの絞り込みがなされていったように思う。

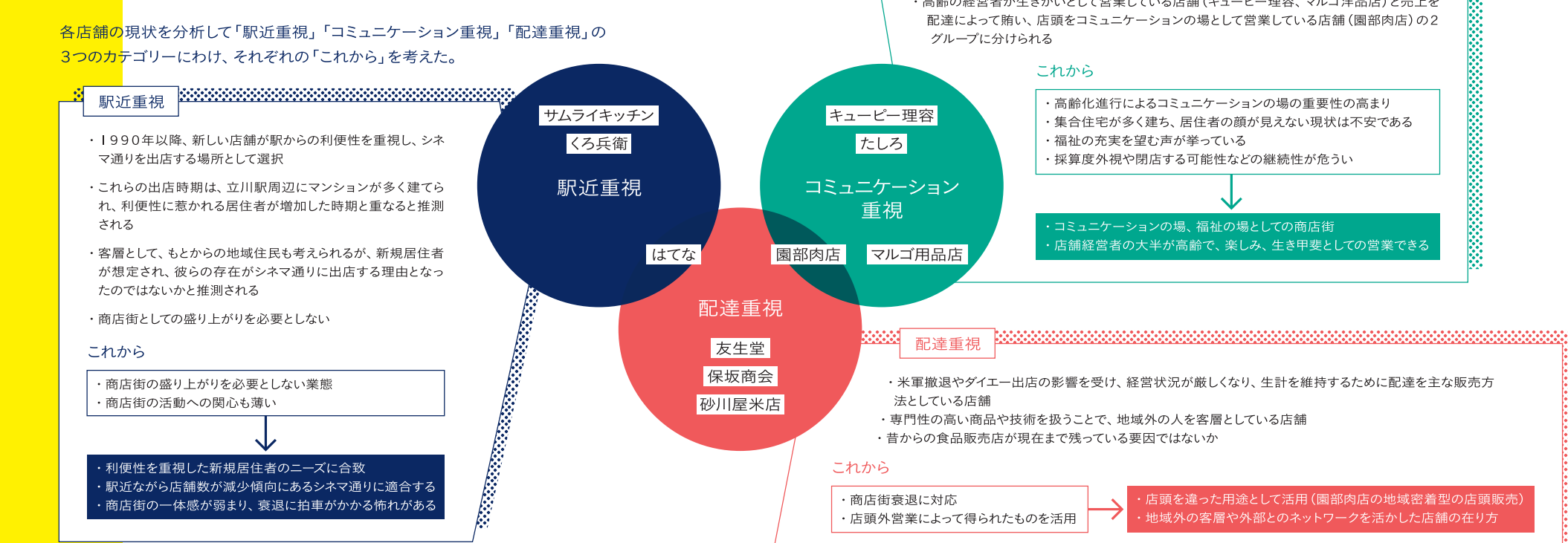
前期の履修者は本学以外からの進学者も多く含まれ、学部時代の専攻も建築学、都市計画学、地理学など多岐にわたっている。また2名の留学生も含まれていた。このように異なるバックグラウンドを持つ学生たちは同じフィールドに一定期間関わり、ともにディスカッションした経験から多くを学んだに違いない。特に、同じ対象地域がさまざまな異なる観点からとらえられることに気づき、そこでの課題発見や取り組みの提案における方法的な多様性、それぞれの専門分野を持つ特性と相互協力の可能性に接したことが、個々の学生たちの今後の研究や取り組みにおいて財産となっていくことを願っている。(山本薫子)



### シネマ通り商店街における各店舗の変遷と現状 —店舗経営者へのヒアリングを通して—

物品販売			食料品販売		
友生堂時計店 業種 時計販売・修理 開店年 1957年 階数 2階建て 営業時間 9:30~20:00 店舗形態 店舗併	マルゴ洋品店 業種 洋服販売 開店年 1955年 階数 2階建て 営業時間 9:00~20:00 店舗形態 店舗併	古布専門店 はてな 業種 古布販売 開店年 1998年 階数 1階 営業時間 11:00~18:00 店舗形態 店舗併	多摩水族館 業種 観賞魚販売 開店年 1975年 階数 2階建て 営業時間 10:00~19:00 店舗形態 店舗併	(有) 砂川屋米店 業種 米販売 開店年 1931年 階数 2階建て 営業時間 9:00~19:00 店舗形態 店舗併	リカーおおくにや 業種 酒販売 開店年 1975年 階数 1階建て 営業時間 9:00~20:00 店舗形態 店舗併
散田青果店 業種 青果販売 開店年 1965年 階数 2階建て 営業時間 12:00~20:00 店舗形態 店舗併	御菓子司 井筒屋 業種 和菓子製造小売 開店年 1925年 階数 2階建て 営業時間 8:30~19:00 店舗形態 店舗併	園部肉店 業種 精肉販売 開店年 1990年(移転) 階数 4階建て 営業時間 13:30~19:30 店舗形態 店舗併	保坂商会 業種 食肉販売 開店年 1957年 階数 3階建て 営業時間 8:00~17:00 店舗形態 店舗併	キュービー理容 業種 理容業 開店年 1953年 階数 2階建て 営業時間 9:00~17:00 店舗形態 店舗併	ヘアメイクすたろ 業種 美容 開店年 1989年 階数 1階建て 営業時間 9:00~17:00 店舗形態 店舗併
もつ焼きくろ兵衛 業種 飲食店 開店年 2000年代前半 階数 2階建て 営業時間 — 店舗形態 店舗併	サムライキッチン 業種 飲食店 開店年 2010年 階数 3階建て 営業時間 17:00~24:00 店舗形態 店舗併	たかちゃん 業種 飲食店 開店年 1990年代前半 階数 2階建て 営業時間 17:00~23:00 店舗形態 店舗併	桑原兄弟製作所 業種 娯楽 開店年 1965年 階数 2階建て 営業時間 9:00~17:00 店舗形態 店舗併	かすみや 業種 (雑貨販売) 開店年 1928~2011年 階数 3階建て 営業時間 — 店舗形態 店舗併	

物品販売 4店/44店	食料品販売 6店/44店	美容・理容 4店/44店	飲食店 8店/44店 (3店舗をヒアリング)
1、開業年 古布専門店をはてな以外の3店舗は米軍基地があった頃に開業し、今日まで経営を続けている。	1、販売方法 配達をやっている店が多い。(保坂商会は配達のみで経営している)	1、開業年 1990年以降に出店した店舗が多い。	1、開業年 1990年以降に出店した店舗が多い。
2、客層 古布専門店をはてなと友生堂時計店は専門性が高く、商店街の近隣住民ではなく、外部からの人々を対象としている。	また、園部肉店と砂川屋米店の2店舗は、配達と店頭両方を行っている。いずれ店舗も売上のほとんどが配達による。	2、居住地 テナント店が多く、経営者の居住地は別のあるところがある。	2、居住地 テナント店が多く、経営者の居住地は別のあるところがある。
3、経営方針 古布専門店をはてなは配達をメインがメインであり、売上のほとんどが配達による。	3、居住性 経営者が店舗の上階に住んでいる場合が多い。	3、経営方針 夜間のみ営業時間にする店が多い。常連客が中心の店舗(たかちゃん)と駅に近いという立地を活かした店舗に分かれる。	3、経営方針 夜間のみ営業時間にする店が多い。常連客が中心の店舗(たかちゃん)と駅に近いという立地を活かした店舗に分かれる。
友生堂時計店では、口込みや常連客からの紹介、ネットなどの情報から経営者の腕を聞きつけて、外部から来店する人もいる。	4、売上低下した理由 ダイエー出店の影響を直に受ける。		



### 来街者を対象とした立川北口商業エリアのイメージ調査

立川北口の商業エリアの特徴や印象、魅力となる要素を明らかにするため、被験者(20代の建築系の専攻の学生6名)に立川北口の地図を渡し、こちらが指定したルート歩くなかで各ゾーンで印象に残ったものを写真に撮ってもらい、個別面接によるヒアリング調査を行った。ゾーンは4カ所にわけた。いずれのゾーンも都市計画上で商業区域に分類されており、その中でも空間の質及び歴史的背景がそれぞれ異なる特徴のあるゾーンを選定した。建築物を業態別に色分けした立川北口の地図を示し、ゾーンの特徴と被験者のルートを示す。

**ZONE 3**

他のゾーンが自然発生的な商業区域であることは極めて、百貨店などの大型商業施設や業務ビルが計画的に配置されたゾーンであり、他のゾーンが建物密集しているが、このゾーンは建築物との間が広く取られている。

被験者の撮影した写真の要素別構成比

- 自転車・車 8%
- その他 1%
- 店舗空間 10%
- 外観 12%
- 内観 5%
- 看板 1%
- 展示品 2%

**ZONE 2**

以前米軍関連施設や映画館など、「核」となる施設が存在したことから風俗店やバーなどの店舗が密集し、繁栄した地区であるが、「核」となる施設がなくなったため店の撤退が相次ぎ、商店街と定義することが難しくなったゾーン。

被験者の撮影した写真の要素別構成比

- 自転車・車 0%
- その他 5%
- 店舗空間 6%
- 外観 10%
- 内観 10%
- 看板 17%
- 展示品 31%

**ZONE 4**

このゾーンは金融機関や雑居ビルなどが整然と並んでおり、ビルの低層階に商店や飲食店が入居した駅前立地型の商業空間となっており、都市の顔となるゾーンである。

被験者の撮影した写真の要素別構成比

- ゴミ 1%
- その他 4%
- 自転車・車 5%
- SF 3%
- 店舗空間 10%
- 外観 12%
- 看板 27%
- 展示品 5%
- 緑 22%

**ZONE 1**

駅に近いことや、駅前の目抜き通りから外れているという立地性から、小規模の飲食店をはじめ、居酒屋やバー、風俗店などの、表通りには立地しにくい業種の店舗が密集しているゾーンである。

被験者の撮影した写真の要素別構成比

- ゴミ 1%
- その他 4%
- 自転車・車 5%
- SF 3%
- 店舗空間 10%
- 外観 35%
- 看板 20%
- 展示品 9%
- 内観 1%

**【総評】**

4つのゾーンのイメージをまとめるとゾーン1・2・3・4のそれぞれでスケール感に関する共通点が見られた。ゾーン1と2ではどちらも道が細く入り組んだおもしろさや、小規模店舗の賑わいなどを感じる傾向がみられたが、2では掲示物や植栽の存在から親近感を抱くという点で違いが見られた。ゾーン3と4では、どちらも直線的で広い道路や高層建築によるダイナミックな都市のスケール感が似ていると感じる人が多かった。ゾーン3では空間の大きさに違和感を感じる傾向があったが、ゾーン4ではチェーン店等の特徴的なものがあることによって、どこにでもある空間と感ずるようだった。

立川北口においてここにある店(看板・ストリートファニチャー・お店)の配置位置や密度によって空間の印象が変わっているといえる。今後、エリアごとの特徴を伸ばすには、そのエリアのもつ特有のスケール感を考慮しながら、物の配置や密度の操作を行って変化をつける必要がある。





# 7

## 郊外都市賦活の方法論

2012年後期の学域横断型授業では、立川市をフィールドとして、郊外都市を賦活する(課題を解決し、元気にすること)具体的なプロジェクトの企画立案を3つのユニットに分けて行った。建築や都市計画といった、具体的な空間計画ではなく、それを作り上げるプロセスも、アウトプットの形も異なるユニットが走るようになった。

### 合意形成論

どんなイノベーションなアイデアであっても、地域課題の解決に結びつけるためには、さまざまなレイヤーでの合意形成が必要となる。まずは学生自身が、チーム内での合意形成を通じて、いかに合意形成プロセスを円滑化するかに考えてみる。チーム編成の段階で、意識的に特定テーマに強い課題意識を持つメンバーを揃えることで、感情的な議論となることを避けた。また、チームとしての当惑に陥る前に、面白いアイデアを探り出すことで、地域課題解決に向けたプロセスを学ぶ事とした。本日は中心メンバーの議論をベースに、検討テーマを取り込む。次に、リサーチを通じて解決すべき地域課題を抽出、賛否両論などを踏まえ、地域における活用可能なリソースを洗い出し、これらを有機的に結びつけて課題解決の道を探る。レポジョーは思いもよらず、講師からは論議の提示のみを行うこととし、短時間で議論の質を高めた。



羽山真人 (もみやま まこと) 経営コンサルタント 株式会社リライト Managing Director http://www.re-write.co.jp/

### アクションプランニング

チームに参加する条件はただひとつ、アイデアをペーパーに落とし込むだけでなく、実践しながら地域課題解決の糸口を見出す。実践型リアルプロジェクトが実施された。教室を飛び出し、自分たちのアイデアを現場に地域の人の反応が待っている。そこから発生したリアクションから新たな発想をもとに、アイデアを徐々にブラッシュアップするプロセスを学ぶ事とした。当然、受けが悪いアイデアによっては無反応となることも想定される。しかし無反応という、ひとつのリアルなリアクションとして受け止めなければならない。リアクションを得るまでのプロジェクトに競争を伴うことは単なることではない。学生自身、こういった実践を肌で感じながらプロジェクトに取り組む姿勢そのものが、地域課題解決のアプローチにおける重要な要素であると考えた。最終的に、最初に設定した「郊外都市における場の価値の再発見」というテーマのプロジェクトは必ずしも成功しなかった。プロジェクトは実践され、地域の人からのリアクションは得ることができた。課題終了後もこのプロジェクトは引き続き実践される予定。



酒井博基 (きさいひろき) デザイナー 株式会社リライト Creative Director http://www.re-write.co.jp/

### 既存計画論

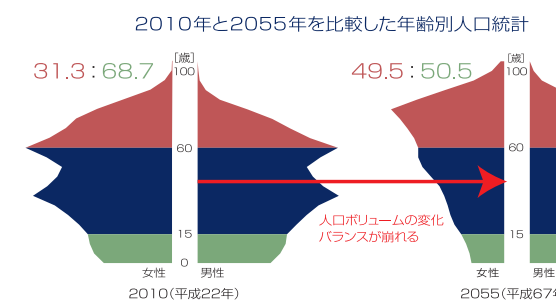
①) 以前、都市・建築に関わる専門家が都市の将来像を打ち出す必要性が高まる中、「計画」という言葉の重要性が再浮上している。成熟した社会において必要となる計画とは、白紙からの計画という近代的な手法ではなく、眼前にある都市或いはその背後にある社会構造といった目に見えない見えにくい既存の資産を最大限活用した計画であることに異論はないだろう。眼前に存在する様々な事象を架構し、統合的に論ずる計画論として「既存計画論」という言葉を設定した。既に在るものを将来どのような都市として計画していくかという既存の計画である。また学生たちが都市のハードの側面とその後ろに隠れた目に見えない社会構造の側面についてリサーチを行い、既存を活用したプロジェクトの提案をスプレッドして作業を行ってもらった。次のステップとして事前対話として選定された地域に対して、複数のプロジェクトを適切に融合させる。新しい地域性の発展を自論的な計画の提案を行った。既存の都市的資産を包括したプロジェクトを有機的に連携させることが、元々の前提条件された柔軟な計画となるのではなく、という仮説に基づく前提条件があり、その有効性について引き続き議論を重ね、論の前後関係が変化していくと考えている。



古澤大輔 (ふるさわ だいすけ) 建築家、メジャロスタジオ共同主宰 http://www.meiostudio.com/

### 寺孫屋 (てらまごや)

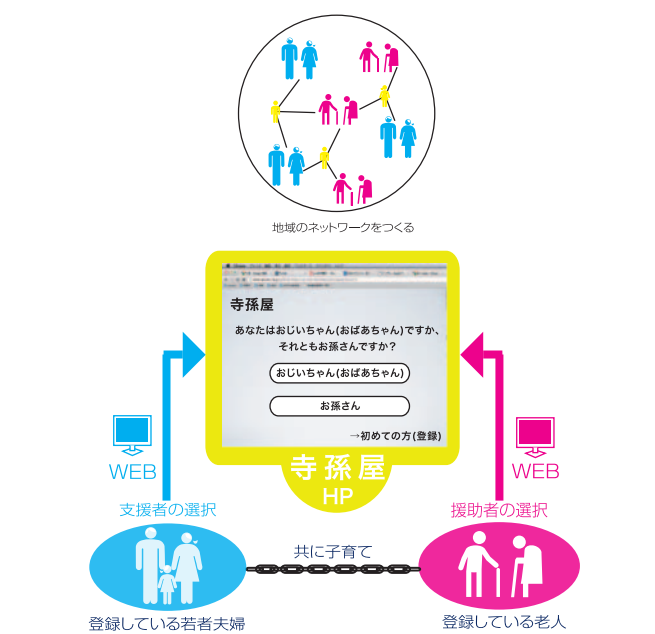
「地域の高齢者と子供をつなぐ新しいカタチのソーシャル出会い系サイト」 元気な高齢者はたくさんいる。一方、養育したい、育てたいと心願する。もし、そんな若者を高齢者が抱く希望ができた。【課題】子どもと高齢者の出会い系サイト。このサイトを利用して高齢者と子供、そしてその親である若者をマッチングさせる。テーマとしたのは、若者が高齢者と交流する機会をのびに広げることである。立川のような東京郊外の高齢化の平均率は、現状は全国平均よりも低い。高齢化のスピードは速く、今後20年間で23区内の平均年齢が上昇することを見込まれる。今後、高齢者を支えていく必要は増すが、若者だけが全てを担うのは無理なため、高齢者が支えられることが重要である。



【地域課題】 若者の現状は、特に子育てを志す地域の中で孤立しており、子育ての相談相手がいなくて不安を感じたりする人も多く、共働き世帯が増えていること、自分で育てる時期の子供を預けたりする場所が不足し、待機児童が増えていること、一方、高齢者の現状は、孫の世話や地域活動を楽しむことができず(孤独死)に悩んでいたり、介護施設に入居したいが費用が高額である(介護施設費)などの課題に直面しているという課題がある。 【リソース】 仕事を終えて、かつ孫の世話を生かしている立川の健康な高齢者は、立川市内でおおよそ1000人程度おり、リソースとみなせる。 【総合調査】 立川市ではファミリー・サポート・センターという、子育て支援の事業がある。これは、子育ての手助けを受けて欲しい(依頼者)と、子育てをお手伝いできる方(援助者)とをつなぐサービスである。この事業で、高齢者が子育てを手助けを行うことは可能であるが、子供を預ける側としてはなかなか子供の世話をしているのだから不安な点も多い。

### 寺孫屋の利用方法

【登録と若者それぞれの役割】 ①出会い系サイトに登録し、高齢者は趣味・特技や、若者は子供の特徴等をHP上で公開する。 ②HP上の情報をチェックし、お互いに、子供やお互いの親に合いそうな高齢者を見つける。 ③面談し、お互いの相性をみて子育てを契約を交わす。具体的な内容は各自が相談する。 子育て講座等のプログラムを修了して、子育ての知識や技術があると認められた高齢者に登録してもらうこと、相手の顔が合う1対1の丁寧な対応により、仕事と育児両方やたい方々が安心して利用してもらうことができる。



【寺孫屋の仕組み】 【登録方法】 ①プロフィール登録 ②希望の相手に依頼 ③面談・相談 ④支援者の選択 ⑤希望の相手に依頼 ⑥面談・相談 ⑦支援者の選択 ⑧登録している老人

### 立川しりとり

「街の楽しい発見の仕事」 郊外都市には、誰にも使われていない「使っていない」スペースが多いことが、チームの共通認識として挙げられました。そこで、「場所の価値の再発見」をテーマとして設定、先行事例の調査を行い、一般市民によって行われる「節制的な仕組みが促している」と分析し、それを踏まえた仕組みを考えていきます。一般市民が気づいていない、モチベーションを維持していくのが課題となり、facebookを活用した事前の告知の段階、事前イベントとして開催する、twitter・スマートフォンを活用し、場所を撮影したゲームを行うことで、遊びながら街に好奇心をもってもらいたいという案が生まれてきました。そして2012年1月14日、立川しりとりを実施しました。



### 立川しりとりが目指すもの

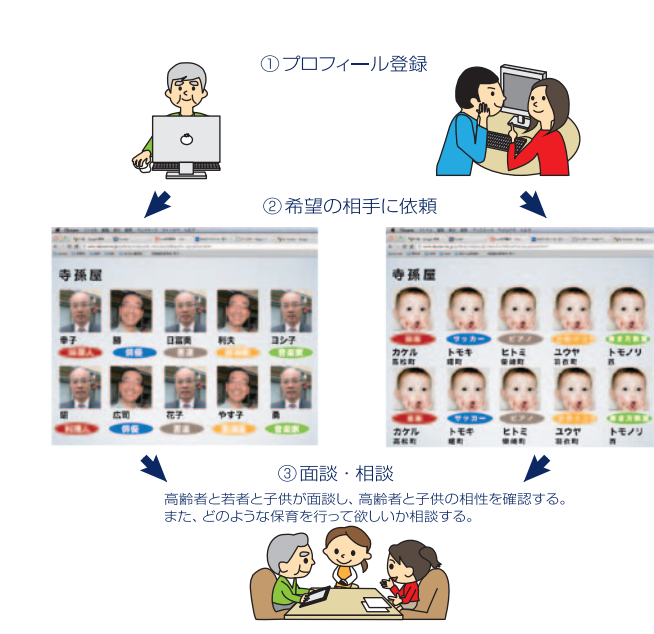
オーブンスケールで画一的に見える郊外都市。しかし、個性や個性の力を感じたい。それを市民が見つけ、活用していくことで、街は魅力的になる。市民の街を見る眼が上がる。市民の街を見る眼が上がる。市民の街を見る眼が上がる。

### 立川しりとりのルール

「街を見る目を養うゲーム」 立川の街を歩き、共有し、街に対する眼差しを変えるための手段として、立川で撮影した写真を名前付きでTwitterに投稿し、つぶやきをつなぐゲーム「立川しりとり」を提案します。

### 寺孫屋の仕組み

【登録と若者それぞれの役割】 ①出会い系サイトに登録し、高齢者は趣味・特技や、若者は子供の特徴等をHP上で公開する。 ②HP上の情報をチェックし、お互いに、子供やお互いの親に合いそうな高齢者を見つける。 ③面談し、お互いの相性をみて子育てを契約を交わす。具体的な内容は各自が相談する。 子育て講座等のプログラムを修了して、子育ての知識や技術があると認められた高齢者に登録してもらうこと、相手の顔が合う1対1の丁寧な対応により、仕事と育児両方やたい方々が安心して利用してもらうことができる。



### 立川しりとり参加者の反応

「たかがしりとり」 @tchkw\_shiritori 2012年1月14日、8月のプレイヤーで街を歩きました。立川の小な魅力を発見し、ついに立川しりとりが本格的にスタートしました。街の魅力が、みんなの目で見つかりました。街の魅力が、みんなの目で見つかりました。街の魅力が、みんなの目で見つかりました。

### 提案に対する議論と今後について

この議論は2012年1月16日に開催された学域横断型講義の最終発表会でされた議論をまとめたものである。発表会には講師の他、杉浦秀夫(地理環境科学域 都市環境学部長)吉川徹(建築学域)が参加した。

「発表時に交わされた議論をまとめたテキスト」 「発表前に交わされた議論をまとめたテキスト」 「発表前に交わされた議論をまとめたテキスト」 「発表前に交わされた議論をまとめたテキスト」 「発表前に交わされた議論をまとめたテキスト」 「発表前に交わされた議論をまとめたテキスト」 「発表前に交わされた議論をまとめたテキスト」 「発表前に交わされた議論をまとめたテキスト」 「発表前に交わされた議論をまとめたテキスト」 「発表前に交わされた議論をまとめたテキスト」

## 首都大学東京 郊外型都市賦活更新プロジェクト研究 郊外都市横断スタディーズ 2

METHODOLOGIES TO ACTIVATE SUBURBAN CITY